

平成26年度 中間評価表										鳥取県立鳥取工業高等学校							
中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。			今年度の重点目標		1. 基礎学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現										
評価項目		評価の具体項目		年 度 当 初		現状		目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		経過・達成状況		評価結果	10 月	改善方策	
1	基礎学力の向上	①	授業改善と学力の定着	【授業評価アンケート結果及び活用】 ◇生徒の授業満足度は概ね良好 ◇学習状況や理解度向上傾向 ◇授業改善に活用 ◇研修会の情報を共有 【基礎力診断テスト結果及び課題】 ◇基礎力不足層の減少傾向 ◇意欲喚起に課題 【全国工業高校校長会主催標準テスト結果】 ◇成績向上に課題 【「5S」、「あさひ」の取り組み】 ◇全体的には定着 ◇授業前の着席・挨拶は改善 ◇授業前の教材準備の徹底に課題 【公開授業】 ◇多くの教科で実施の状況に課題 【学習環境の整備】 ◇ロッカー内、上の整備向上 ◇授業前の着席・挨拶改善 ◇教科書等の準備に課題		【授業改善】 ・教科指導の研究と授業改善 ・ICT活用によるわかりやすい授業づくり ・生徒の意見を引き出す問いかけ ・コミュニケーション能力が向上する指導 【基礎学力の育成】 ・(工業科) 専門教育へ対応できる基礎的な数学力の育成 ・生徒個々の能力の伸長 【学習環境の整備】 ・基本的な学習習慣の確立(「5S」、「あさひ」の徹底)		【授業改善】 ○学力向上委員会を中心に具体的な取り組みの提案 ○フレゼン等を活用した授業の増加 ○ペア学習やグループ学習の実施 ○各種研修会への参加及び内容の共有 【基礎学力の育成】 ○(工業科) 数学基礎演習(1年生)の実施と傾向の把握放課後補習 ○個別指導の充実・課題、小テストの実施 【学習環境の整備】 ○教室美化・授業開始前の学習準備・着席・挨拶の徹底・提出物期限厳守の徹底		【授業改善】 ①学力向上委員会で研修会等、具体的な取り組みを企画 ②授業評価アンケートを実施 ③ICT活用やグループ学習を一部教科で実施 ④各種研修会へ参加 【基礎学力の育成】 ①(工業科) 数学基礎演習(1年生)の実施と傾向の把握 ②個別指導の充実、進学補習(2,3年)、小テストの実施 【学習環境の整備】 ①提出物の期限内提出指導の実施 ②教室美化、学習準備の指導を実施		C	【授業改善】 ①学力向上のための研修会、模擬授業実施 ②授業評価アンケートの分析と授業への還元 ③ペア学習、グループ学習に加え、ジグソー法を実施 ④他校での学力向上研修会への参加 【基礎学力の育成】 ①(工業科) 数学基礎演習(1年生)の傾向把握継続実施 ②学習内容の精選、放課後補習の充実 【学習環境の整備】 ①提出物の期限内提出指導の継続 ②授業における学習規律の徹底				
		②	主体的な学習態度と実践力の育成	【進路行事等の取り組み】 ◇適宜、担任・教科担任で面談・声かけ等を実施 ◇生徒の進路目標の早期設定に課題 【生徒の学習状況(自宅学習調査結果等より)】 ◇概ね昨年度より学習時間が増加。 ◇一部の科で学習スペースを開放(学校での自主学習) ◇課題提出等期限厳守に課題 【シラバス】 ◇評価基準・方法を周知		【学習意欲の喚起】 ・各分掌・教科の諸活動を通して生徒の学習意欲を喚起 ・進路・学習目標の確立を支援し、自宅学習の習慣化を促進 ・学習規律の確立		【学習意欲の喚起】 ○各種試験・適性検査・外部進路行事等の活用と面談の実施 ○シラバスの活用・課題テストの実施・自宅学習調査(年2回)の実施と分析 ○教室美化・授業開始前の学習準備・着席・挨拶の徹底		【学習意欲の喚起】 ①個人面談の実施(学年付き職員が、2回実施)担任・教科担任が、面談・声かけを実施 ②基礎力診断テストをはじめとする各種外部試験、各教科の課題テスト、資格検定試験の案内、実施 ③自宅学習調査(前期)を実施、全校的に昨年度より学習時間が減少		C	【学習意欲の喚起】 ①面談時間の確保、面談の推進 ②各種試験等の受験奨励 ③自宅学習調査(後期)を実施、自宅学習計画の指導				
2	豊かな人間性の育成	①	互いを尊重する態度と社会性の涵養	【性教育】 ◇WYSH教育 全教職員で理解深化 【ハイパー・QU】 ◇職員研修で、全職員に周知 ◇LHR・面談等に結果を活用 【いじめアンケートの活用】 いじめ問題に早期に対応 各教科でも人権教育を推進 生徒が相談しやすい環境の整備に課題 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ◇情報をもとに速やかに対処 ◇一人一研修の取り組みが不十分		【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ・生徒の自己肯定感・自己受容感の向上 ・共に認め合い、互いの個性を尊重しあえる人間関係の構築 【人権教育の推進】 ・教職員研修を通した自己の振り返り ・教職員間連携、関係機関との連携による問題の早期対応		【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ○人権教育・性教育LHRの充実、人権意識の高揚、他者の人権・存在を尊重する態度の育成 ○性教育LHR、WYSH教育LHR(1年生)の実践 ○ハイパー・QUアンケートの分析・活用、生徒理解、クラスの目標の設定、集団規律の形成 【人権教育の推進】 ◇一人一研修の徹底、校外の人権教育研修への自発的参加の呼びかけ ◇生徒情報の把握、いじめアンケートの活用 ○専門機関との連携、各学年・各分掌の連携、密な情報交換		【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ①人権教育LHR2回実施・性教育講演会実施 ②ハイパー・QUアンケート1回目実施、職員研修を実施し、クラスの目標を設定 ③WYSH教育研修会参加 6名(1年担任、保体主事)		C	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ①公開人権教育LHR(2年生)、WYSH教育LHR(1年生)に向けて、計画的に事業を実施 ②ハイパー・QUアンケート2回目を実施 ③今後も人権教育LHR事前・事後研修を実施				
		②	健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ◇指導を徹底 「5S」、「あさひ」は概ね定着 ◇挨拶、遅刻は改善傾向 【ボランティア活動】 ◇活発化(H25年度:テクノボランティア12名、砂丘ボランティア50名、とっとりサイエンスワールド46名、県社協主催ボランティア14名、児童福祉施設ボランティア4名等) 【部活動、生徒会活動】 ◇各種活動(高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、中庭の花植え、校内美化、携帯・インターネットを考えるフォーラム等)に参加 【環境改善】 ◇校内環境整備(花木の剪定と除草)へ保護者・生徒が多数参加 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導実施 交通安全教室を実施 実験・実習器具等の取り扱い指導の徹底 ◇SNS等の取り扱い・問題に対応 校内での携帯電話の取り扱いに課題		【基本的生活習慣の確立】 ・自ら挨拶ができる生徒の育成 【ボランティア活動の推進】 ・社会の一員としての自覚思いやりの心を育成 【部活動や生徒会活動の推進】 ・各種活動への参加意識向上 【環境改善】 ・環境改善の意識向上、取り組み強化 【安全教育の推進】 ・交通ルールの順守意識の向上 ・携帯電話ルールの順守		【基本的生活習慣の確立】 ○「5S」、「あさひ」の徹底、日々の授業や学校行事を通じて啓発 【ボランティア活動の推進】 ○テクノボランティア・家庭クラブ活動の推進、参加の呼びかけ 【部活動や生徒会活動の推進】 ○各クラス役員の活動の活性化 【環境改善】 ○TEAS講演会、環境LHR等の実施 ○ごみの分別、節電・節水の取り組み強化、啓発活動の充実 【安全教育の推進】 ○交通安全教室、薬物乱用防止教室の開催 ○携帯電話マナー講習の開催		【基本的生活習慣の確立】 ①授業や生徒会活動を通じて「5S」、「あさひ」を実践 ②実習終了5分前の整理・整頓・清掃(3S)の徹底 【ボランティア活動の推進】 ①夏季テクノボランティアを実施(2軒に9名参加) ②とっとりサイエンスワールド2014にボランティアとして参加 ③自転車空難防止路に参加 ④高校生さわやかマナーアップ運動に参加 【部活動や生徒会活動の推進】 ①多くの生徒が何らかの部活動に加入 ②クラス役員を使い活動の活性化 【環境改善】 ①環境LHRの実施 ②管理美化委員のごみの計量を引き続き実施 【安全教育の推進】 ①自転車安全教室、非行防止教室の実施 ②携帯電話マナー講習の実施		B	【基本的生活習慣の確立】 ①今後も授業や生徒会活動を通じ「5S」、「あさひ」を実践 ②実習終了5分前の整理・整頓・清掃(3S)は今後も継続推進 【ボランティア活動の推進】 ①冬季テクノボランティアを実施(12月) 【部活動や生徒会活動の推進】 ①多くの生徒が部活動に加入し活性化の推進 ②クラス役員の活動の活性化の推進 【環境改善】 ①管理美化委員のごみの計量を引き続き実施 ②空き教室の消灯点検等の実施 【安全教育の推進】 ①薬物乱用防止教室の実施(12月)				
3	キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①	専門的な知識・技術の習得	【「工業技術基礎」(共通実習)】 ◇事前指導時間を充分確保(昨年度比3倍) ◇時間厳守は改善 意義理解度は向上 ◇レポート内容が充実 【人材育成】 ◇(工業) 計算技術検定合格126/148名(85.1%(昨年84.8%),若干上昇) 危険物取扱者乙4合格11/90名(12.2%(31.3%),大幅下降) 初級CAD検定合格14/37名(37.8%(39.5%),若干下降)等 (その他)漢検・英検・数検等の資格試験を奨励 対策補習や模擬テストを実施 改善点→漢検:2合格2名,昨年度0名 英検:受験者増 ◇企業見学 (企業19社、短期大学1校、4年制1校、建設現場7件、施設見学2件、昨年度同様) 鳥工版デュアルシステム (機械科2名、電気科6名、協力企業数4社、昨年度比7名減、1社減) インターンシップ事前打ち合わせが充実 ◇3S(整理・整頓・清掃)は改善傾向。 ◇実習・課題研究を中心に、「ものづくり」マインドの育成を推進 県高校生ものづくりコンテスト優勝(電気工事部門、電子回路組立部門、本年度中国大会出場)		【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート、作品等の提出期限厳守 ・レポートの書き方と内容の充実 【人材育成】 ・一人一資格・検定の取得 ・専門知識や技術・技能の習得 ・「守ることを決めて、決めたことを守る」 ・ものづくり精神の継承		【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ○定期的な提出状況確認と提出遅れ指導の実施 ○担当者によるレポート内容に関するコメントの記入 ○再提出等の指導を随時行った結果、改善の傾向 【人材育成】 ○資格・検定ガイドブックの作成と取得指導への活用 ・早朝、放課後補習の実施 ・早期受験案内の実施 ○体験活動の充実 ・鳥工版デュアルシステム、企業見学、インターンシップ、社会人講師による授業等の実施 ・事前指導の実施と徹底 ○「5S」、「あさひ」活動の充実 ・実技を伴う授業終了時の整理・整頓・清掃活動の実施 ・各事業毎での事前指導の実施と徹底 ○ものづくり活動の強化 ・人材の確保 ・先輩から後輩への技能の継承		【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ①例年と比較して、レポートの内容が不十分で期限内に提出できない生徒が増加したため、各担当科で提出・再提出等の指導を随時行った結果、改善の傾向 【人材育成】 ①資格・検定ガイドブックを、4月中旬に配布 ②早期受験案内後、早朝・放課後の補習を多くの科で実施(測量士補、4名合格) ③計算技術検定の直前対策を実施(合格率85%) ④鳥工版デュアルシステムで、機械科2名、電気科5名の希望者があり、3企業で実施 ⑤企業見학을、工業関連企業19社、学校関係3校、公共施設6箇所で行った結果、全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナー等の指導を徹底 ⑦実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は、各科とも定着 ○ものづくりコンテスト中国大会では、2部門にそれぞれ1名が出場し、電子回路組立部門で3位入賞と健闘		B	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ①レポートの内容については、赤ペン指導でコメントを記入する等、引き続き粘り強い指導を実施 ②提出期限の厳守については、実習時に更に徹底 【人材育成】 引き続き指導・支援を継続				
		②	職業意識の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ◇社会人としてのマナーや進路意識の向上 ◇社会人講師事業は効果大 ◇関西研修旅行 生徒の進路意識向上 【進路指導の徹底】 ◇進学補習実施 ◇ハローワークや進路支援企業と連携 ◇個別指導(履歴書指導等)が充実 ◇内定率99% ◇1・2年で進路目標設定面接指導の強化が必要 面接指導を徹底 ◇基本的生活習慣指導を強化 状況は改善中 一層徹底が必要 ◇進路ガイダンスを実施 欠席者が多く参加人数が激減 ◇模擬面接会を実施 模擬面接会実施		【職業意識の育成】 ・企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じて職業観、勤労意識の向上 【進路指導の徹底】 ・就職は一回目の選考試験合格率70%以上、進学は10名以上の国公立大学合格 ・生徒の進路を保障するために学力及びコミュニケーション能力の向上		【職業意識の育成】 ○インターンシップ、企業見学、研修旅行、応募前見学、社会人講師等を実施 ○ハローワーク、進路支援企業等と連携した進路ガイダンスなどの進路行事を開催 【進路指導の徹底】 ①進学補習、個別指導、作文指導等を実施し、学力向上 ②外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ③進学対策会議を開催し、より生徒に適した進学先を提案 ④ハローワークなどの協力を得て、面接指導を実施 ⑤個別進路面接を2年の3学期から開始 ⑥10人面接、各科の面接指導、担任面接をより充実 ⑦進路希望調査を2回から3回に増やし、懇談等での活用を促進		【職業意識の育成】 ①インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ②外部就職ガイダンス等の進路行事を実施 ③高大交流事業・大学訪問を実施 【進路指導の徹底】 ①進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ②外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ③理数工学科進学検討会を7月に実施 ④10人面接の早期実施、各科の面接指導、担任面接により充実 ⑤第1回進路希望調査を全学年、第2回を3年P科に実施し、結果を活用 ⑥個別進路面接を2年の3学期から開始し、8月には進路最終決定PTA懇談会を実施		B	【職業意識の育成】 ①応募前見学、社会人講師、進路LHRを継続実施 ②2年生向けの外部就職ガイダンス等の進路行事を計画・実施 ③高大交流事業を継続実施 【進路指導の徹底】 ①進学補習、個別指導、作文指導を継続実施し、学力向上推進 ②外部模試の結果から対策を考え指導法等に継続活用 ③理数工学科進学検討会を11月・1月に実施予定 ④就職先内定者・進学希望者の面接指導を継続実施 ⑤進路希望調査を10月・2月に実施し、結果を活用				
		③	地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ◇各事業の効果大 ◇企業との連携を強化 【情報発信】 ◇津ノ井地域へPTAだより配布 ◇学校HPの充実 ◇とっとり産業フェスティバルやマスコミへ情報提供 ◇各科の内容を中学生へアピール(中学生体験入学や鳥工TEC等) ◇学校情報サイト「まちCOMIメール」が浸透 【地域との連携】 ◇各行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ◇保護者との積極的な連携 各PTA活動が充実 ◇学校祭や体育祭等への保護者参加大幅増		【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 【情報発信】 ・地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化		【人材育成】 ○企業見学、インターンシップや鳥工版デュアルシステムなどを通じて企業ニーズに応える人材育成 【情報発信】 ○出前授業やテクノボランティアの実施や、HP等での情報発信 ○まちこみメールの活用により学校行事の保護者参加増の促進 【地域との連携】 ○テクノボランティアや桜ヶ丘グリーンゾーン活動等の貢献活動の充実 ○津ノ井地域懇談会を通じて地域とより一層の交流 【PTA活動の推進】 ○各事業への保護者の参加増によりPTA活動の活性化		【人材育成】 ①企業見学、インターンシップを効果的に実施 ②理数工学科のサマーサイエンスセミナーで目的意識が向上 【情報発信】 ①出前授業やテクノボランティアの実施や、HP等での情報発信 ②中学校への出前授業回数増でPR効果向上 ③まちこみメールの活用やホームページによる情報発信の充実 【地域との連携】 ①テクノボランティアや桜ヶ丘グリーンゾーン活動等により地域との連携強化 【PTA活動の推進】 ①各事業への保護者の連携強化によりPTA活動が活性化(体育祭・鳥工祭保護者参加者数増加)		B	【人材育成】 ①鳥工版デュアルシステム、社会人講師授業など、効果的に実施 【情報発信】 ①中学校への出前授業の継続でPR促進 ②まちこみメールの活用やホームページの適宜更新による情報発信の継続 【地域との連携】 ①津ノ井地域懇談会の実施により地域との一層の交流 【PTA活動の推進】 ①各種行事でのPTA活動の活性化				

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整 　あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く
 WYSH教育:性に関する教育
 ハイパー・QUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート
 デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]